



English
Japanese
AUDIO

English
AUDIO

Japanese
AUDIO

Japanese
only
TEXT



世界が注目した 記者会見

「日本の 司法制度 では 逮捕されると

99.4 %が 有罪に

なり、 脱出 しなければ

死んでしまっただろう」 とも 言いました。

昨年4月、 日産自動車株式会社 の

カルロス・ゴーン 元会長が 金銭 疑惑

で 再逮捕されました が、 保釈中に

母国 の レバノン へ 逃亡しました。

「自白すれば、保釈する」 と

自白を 迫る 日本 の

検察のやり方には、 国内でも

批判があります。

1月8日 には レバノン で、

自ら招いた メディア に 記者会見を

開き、 逮捕は 検察 と

日産の 経営者 が 組んだ

クーデター で、 不当に

拘束されていた と 述べました。

この記者会見は、 日本の司法制度が

いかにひどいかという印象を 世界

に 与えました。 しかし、 これに

反論するコメントも 国内外から

たくさん ありました。



一方、レバノンでは政治腐敗への抗議が高まる市民の反応は賛否両論で、「不正がまかり通る安全な場所だから帰国したのだろう」との声もあがっています。

検察は、有罪率が高い理由は、

起訴できる確かな証拠がなければ

逮捕しないからで、今回のケースでも

十分な証拠があるのと

コメントしました。

ゴーン被告は「私には発言力と

金がある。他の人にはできないことが

できる」とも発言したといわれています。

15億円もの巨額の保釈金を

捨てても逃亡したのは、罪を

認識していて、裁判で勝てない

ことを知っているからだとの

見方もあります。

日本の検察は、歴代の

総理大臣で最も影響力が

あったといわれる田中角栄元総理

のさえも、贈賄などの容疑で

逮捕、起訴しています。